

Enterococcus hirae による感染症例

-細菌学的考察を中心に-

◎渡久地 陽架¹⁾、玉寄 美也子¹⁾、上原 聖美¹⁾、仲宗根 勇²⁾
北部地区医師会病院¹⁾、琉球大学医学部附属病院²⁾

【はじめに】

Enterococci は菌血症、心内膜炎、尿路感染症の原因菌種であり、中でも *Enterococcus faecalis*, *Enterococcus faecium* が感染症の多数を占める。*Enterococcus hirae* は動物感染原因菌種として知られ、ヒト感染症報告は非常に稀である。我々は *E. hirae* による尿路感染症からの敗血症症例を経験し、さらに尿路への侵入門戸の細菌学的検索を実施した。今回 *E. hirae* の文献および細菌学的考察を中心に報告する。

【症例】

女性 87 才、尿路感染症のため入院した患者で、入院 1 日目に採取された血液培養から *E. hirae* が検出された。同日提出の尿材料からは *E. hirae*(10^5), *Escherichia coli*($\geq 10^7$), *Actinotignum. schaalii*($\geq 10^7$), *Areococcus urinae*(10^5) の 4 菌種が検出された。腸管から尿路への侵入を疑い患者糞便も培養検索したが *E. hirae* は検出できなかった。菌種同定において、API 20 STREP では *Lactococcus lactis* (67.3%), rapid ID 32 STREP では *E. hirae*(99.9%), VITEK 2 では株により同定確率が異なった。

【臨床材料糞便からの *E. hirae* 保菌調査】

自家調整選択培地を作成してヒト腸管内の保菌調査を実施した。臨床由来糞便 38 件中 1 株 *E. hirae*(2.8%) が検出された。糞便中に多数を占めた Enterococci は *E. faecalis* 15 株 (42.8%), *E. faecium* 10 株 (28.6%), であった。

【考察】

Enterococci は多種多様な日和見感染原因菌種である。共生細菌とホストの微生物学的動態変化により、消化管に colonization した菌種が腸管外臓器へ侵入することで感染発症に至る。今回実施したヒト腸管内での保菌調査では、ヒト腸管内保有は非常に少ない結果であった。事実、患者糞便からも *E. hirae* は検出できず、尿路への侵入門戸を確定できなかった。rapid ID 32 STREP では正確に同定可能であったが、日常検査で利用される一部の同定方法では誤同定を招くことが示唆された。長期入院患者や侵襲的医療器具装着治療患者、免疫低下患者では major な Enterococci 以外の菌種も想定して検査する必要がある。

《連絡先》0980-54-1111